

## 20年間腐心の結果が

## 美事に花開いた白石町（佐賀）の乾田直播

河 見 泰 成

## 脊振山地の三瀬峠を越え

## “肥前白石米”の産地白石町へ

福岡市の中心から西南へはぼ30分も車で行くと、道は次第に登りとなって脊振山地（主峰は脊振山1055m）の三瀬峠に着く。紅葉まではまだ幾らか間がありそうだが、10月下旬ともなれば、北九州でもさすがに山間には秋の気配が濃い。

最近できたばかりだという、簡素ながら小綺麗なドライヴインで、名物？だという“月見うどん”で昼食をすました後（噂にたがわずうまい！）脊振山地を一気に下り、小城羊かんや相撲の“小城の花”で知られた小城町を過ぎると、“肥前白石米”の産地として知られる佐賀県杵島郡白石町は、そこから10分ほどの距離にあった。

この辺いったいは、もと有明湾の一部を埋立てた早たく地で、農業を営むあちこちの集落がやがてまとまって“白石町”となっただけあって、いかにもそれらしい町である。

“機械化省力というのは、農業の技術革新の方向であるが、このこともよく研究して、機械の導入をはからなければ、利益が高まるとはかぎらない。”が、一方、農家は、“手持ちの機械を上手に活用したい。新しい機械は動力刈取機以外は買いたくない。そしてこれらの機械を使って、超省力の米づくりをやりたい。”—と思索する。”

“この考え方にびったり適応するのが、稲のばらまき栽培である。ばらまき栽培であれば、手持ちの機械に動力刈取機を加えただけで、規模拡大に対応できる技術でもある。”

これは本誌9月特集号に掲載されている、香川県農試の安藤奨先生の“乾田ばらまきの適地と利点を考える”の一節である。

たしかに、当面のいやこれからの日本の米づくりは、省力（低生産費）→良質→多収→規模拡大につながらなければ、経営の意義がない。

さればと云って、その乾田直播が、どこどどの県で、どのくらい面積で栽培されているか—という質問に対して、当の農林省でもはっきり返答しかねるほど、データはキャッチされていないようである。



白石地区農業協同組合事務所

ところが、ここ白石平野では約1,630戸の米作農家の殆んどが、白石地区農協営農部の好リードのもとに乾田直播と取組み、元肥と中間追肥に磷硝安加里4646、穂肥としてCDUS 855を施肥体系として、昭和40年以来“白石の乾直”として特異の基盤と名声をぎざぎざ上げて今

日に至っている。

今日（10月19日）脊振山地を越えて、チッソ旭肥料（株）福岡営業所の森山さんと白石地区農協を訪れた目的は、営農部の陣内（農産）、菰田（営農）両課長にお目にかかり、乾直栽培の指導推進の実際を伺うためであった。

“後からついておいでなさい。”筆者が強度の近視であるのを知ってか、森山さんは筆者の足もとを気づかうように、蛍光灯のともらない農協の事務所の裏口へ廻って“ご免下さい。”と声をかけた。と、妙令の女性が顔を覗かせ、森山さんを見るや“陣内さん”と声をかけた。それを待ちかねていたかのように、“森山さんが来たか”という声が出てきて、“まあこっちやおいで。…。2時半というこっちやが、どうせ3時にはなと思うてな、一服しとったら、誰もおらん気やすさか、ついウトウトしてしもうてなあ…。”と挨拶された。白石地区農協営農部農産課長の陣内信夫さんである。

人気のない農協事務所と云えば、賢名な読者には、この日“白石地区農協は休みだったんだな？”とお察しがつくと思う。まさにそのとおり、本来ならば10月15日のいま頃、ここを訪ねていた筈であったのだが、九州方面

の列車は上下線とも非常に混んでいて、なかなか都合のいい切符が手に入らず、14日西下の予定が心ならずも18日に延期せざるを得なくなった訳だが、今度は森山さんの方から、“先方は幸い承知して呉れましたが、19日は白石地区の祭礼で農協は休日になるのを出てもらう訳ですから、よろしく…”と、クギをさされる仕儀と相成った。



米で行くからにゃ  
辛いが政府に協力する。  
(農協事務所で語る陣内さん)

### 乾直が地についたのは40年だが

#### 研究は24、25年頃から着手されていた

“この白石町を中心とする白石平野は、本来有明湾を早拓したところで、環境的に非常に米づくりに恵まれておる。そういう訳で、この辺の生産農家の米に対する愛着は非常に強いものがあります。のみならず、これまでは、ただただ増産一本槍で稲作が推進され新佐賀段階方式に見られるように、専ら単位当り収量の増収という点が強調されて参りました。が、事態が一転して米が過剰となり、生産調整は避けがたいとなると、今後、“肥前白石米”として市場性を確保するためには、どうしても“うまい米”、“良い品質の米”として、いわば“売れる米”を生産して行かなければならん。”

このとき、彫り(ほり)の深い陣内さんの面上に、サッと或る感慨既いたものが浮かんだようであったが、それはそのまま直ぐ消えてしまった。

“しかし“売れる米”を作るといっても、この白石平野の“米”を関係当局がどう考えておるかが当面の問題な訳ですが、これに対してわれわれは、“需給のバランスを図るため、政府が生産調整を積極的に推進するというなら、進んでこの方針に協力しようではないか…”ということで一応意見の調整ができた。と云いまして

農協内に人気がない理由とは一こういう訳なのだが、人気がなく、蛍光灯もつかぬ事務所というものは、ちょうど誰もいなくなった野球場や競技場のよう、ある不気味さを感じさせるものである。それでも挨拶がすみ、頭上に蛍光灯がともると、そこには平素見なれた事務所風景があった。

も、ここに落つくまでには甲論乙駁、なかなかのものです。こうして4,500haに対し約14%、600ha減の3,900haの作付を諒承してもろうたんですわ…”

農協の農産課長とあれば、当然のことながら誠にご苦労なことである。(そして今度は、ことしの異常気象による冷害にびっくりした農林省は、一転して47年度に減反緩和説を打出す始末だ。)

ところで白石平野の乾田直播は、表向き昭和40年頃から導入されたとあるが、この点について陣内さんは

“それはそうです。しかしわれわれは既に昭和24、25年頃から米作の合理化を考えて乾田直播と取組んで参りました。しかし初期の試みはいずれも失敗しました。と云うのも、結局は機械(或は装置)が揃わない、除草剤がない。特に除草剤のないということが致命的でした。”

20年にわたる腐心の結果が美事に実り、早拓地という要素欠乏の少ない、本来的に良質米を生産する素質がある白石平野に乾直は花開いた訳だ。

“農業特に稲作は慣行的に田植、除草、収穫に相当数の雇傭労力が要るものです。ところが一般的に農村人口の過疎化が目立つにつれて、ようやくこれが顕在化してきた。しかし今後の稲作は雇傭労力に頼るようではダメです。この白石地区でも労力の減少は目立っておりますが、この問題はあくまで、地域で解決しなければならないと思います。”

だから、この問題ではツベコベ云わないと陣内さんは語るのである。そして

“われわれが推進している乾田直播方式は、あくまで経過的なもので、現在の農業人口構成(専業389戸、第1種兼業990、第2種兼業250)が大幅に変動を来すようになれば、当然その方式も大型化さなければならんと思いますが、現時点では小型の動力耕耘機や刈取機を利用して一つまり小型の機械でも取組みやすい乾田直播方式を進めている訳です。”と語る。(現在の方式でも2〜3割の省力につながる。)

苗代がいらぬ、田植からも解放される、現在手もちの耕耘機や刈取機を利用して、労働生産性の高い乾田直播方式が、ここ白石平野に胸を張っているのだ。もっとも乾直方式も普及の限界があるらしいが、広い意味で、ここ2、3年すれば恐らく手刈りする人はいなくなるだろうと云われているのも、充分うなずけることである。

しかし、ことしの異常天候は白石地区でも例外ではなく、10月に入ってからは殆んど降雨を見ないままに経過したが、播種期の天候が悪く、出穂が遅れたうえ中秋の低温で、積算温度が少ないなどの影響を受けて、作柄は96%と“やや不良”というところ。それでも昨年より良いのだそう。

“直播水稻は一般に浸透性が大きく、粒状化した作土は、地力窒素の放出も少ない。一方土壌の強還元化は小さく、水稻の根の活力は高く推移する。”(本誌9月号出井嘉光氏“省力・安全稲作のための施肥法について”)と云われているが、この点は陣内さんも認めている。すなわち、収穫を控えた現時点(10月19日)でも活力の強いことがハッキリ判るということである。

なお、白石地区の乾田直播方式の推進上、見逃がせないことは、昨年から主品種をレイホウにほぼ統一した(他に日本晴などがあるが)ことである。現在普及率は95~96%程度に達しているらしいが、これは耐肥、強稈、穂数型の品種で、多肥しても米質の悪化につながらない—という特徴ある品種である。とは云うものの、実肥をいつやるか一時期が問題で、穂揃い期の実肥は米質を落すから注意が必要だ—と陣内さんは云っている。

### CDUS 855は気象に対応して

#### 効果のある良い肥料だ

陣内さんのレクチャーが終ってちょうど1時間半、再び車で5分くらいの距離にある白石地区農業協同組合錦江支所という看板がかかった建物を訪れた。ここも正面の扉は堅く閉ざされていた。その筈だ。先にも述べたとおり、白石地区のお祭りで休みなのだ。



これ、この葉をご覧  
まだ充分葉緑素が残ってる。

(現圖で乾直水稻を示す孤田さん)

き、その後から“おお、おるよう”と、これはまた陣内さんとは対照的に茫洋とした人物が“どおせ、そのうちに来るじゃろうとゴロリととったじゃ”と云いながら出て来られた。頂戴した名刺には“白石地区農業協同組合・営農課長孤田博之”とあった。

“時間の関係もあるので、はよう現場へ行って見るか”と、こんどは孤田さんの先導で、ここから5、6分

のところにある乾直田に向った。

車の中で陣内さんが、“あの辺は慣行栽培のところ、この辺一体は乾直田ですわ。見わけがつかますか?”と筆者に語りかけるが、車の中からでは、そのケジメの付けようはないが、秋の陽ざしにかすかに揺れ動いている乾直田を見ていると、他県から視察に見える人達が“白石に来て、はじめて直播の稲とはこういうものかと判って感激した。”といったというその感激を、筆者は車を降りて見て新たにした。

われわれが訪れたところは、構造改善事業区とかで、農道も立派に整備されている場所であっただけに、余計その感を深くしたのかも知れないが、そのとき孤田さんから伺った話の概要を示すと次のとおりである。

“主品種はレイホウ、植付適期は6月5日前後です。さて施肥ですが、3月中旬に珪酸苦土を10ha当り90~100kgを散布し、元肥として整地時に磷硝安加里4646を10~20kgと中間追肥として同じ肥料を7月5~10日の間に40~50kgを施し、更に8月18~20日にかけて穂肥としてCDU磷加安S855を30~35kg施します。”



普通植え水稻と  
ちっとも変らぬ乾直水稻

とは栽培ごよみ通りです。このほか特に注意することは土用の中干しと、間断かん水の2点ですが、まあご覧なさい…”と、中に入って稲を示しながら

“このとおり、これらの稲はまだ充分葉緑素が残ってるです。米の品質と収量を決定づけるのは、一にかかって穂肥のやり方にある訳ですが、CDU磷加安S855は気象的变化によく対応し、安心して施肥でくる肥料じゃと思う。”

と云い、更に

“ことしのような異常気象時における穂肥に、特にその効果があるようです。”

“なお病虫害防除としては6月上旬に、ウンカ類の航空防除を行ない除草は播種後サタン乳剤800~1000CCを散布するが葉害は殆んどありません。なお7月下旬に倒伏防止と除草を兼ね2.4-Dを散布するほか、8月上旬にトビロ、モンガレの初期発生防除を行ないますが、あ

と、付け加えられた。

“陣内さん、実はきのう一部分刈りをしたんじゃが、大体7後半という数字が出た。450kgというところじゃが、ことしの天候ではマアマアというところじゃろうか。”

“ここは大型化を推進しとるのでして、あの向うに白

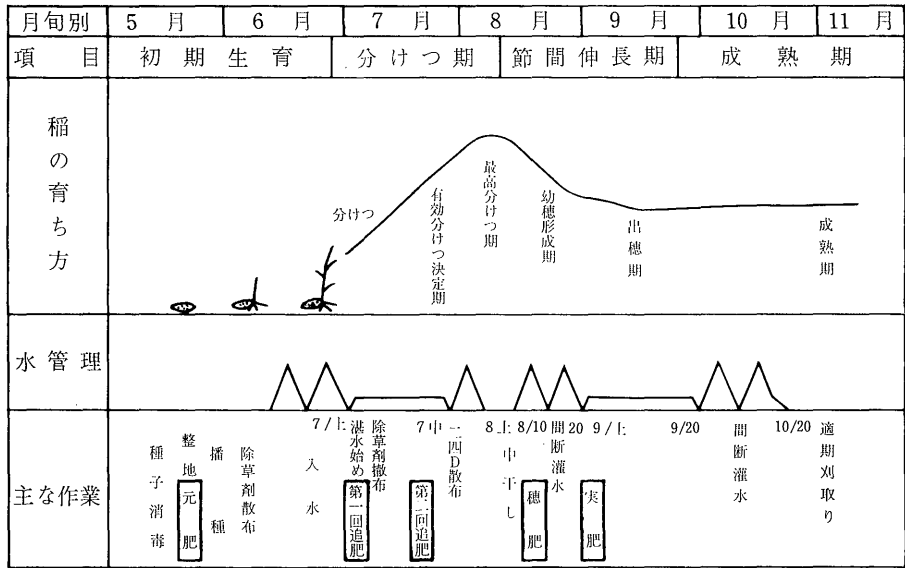
い建物が見ゆるでしょう。あれは格納庫で、30馬力のコンバインが3台入りますよ。オペレーター？ウンおるよ、7人。専門のオペレーターがね。いずれも村の若い連中の中から選んで、順番に長野へ研修にやっとなす。”

と、いうことであった。

(参考) 乾田直播栽培ごよみ

主な注意事項

- 1. 品種と播種期 品種はレイホウを主体とし、トヨタマ、日本晴でもよい。播種期は5月下旬から6月上旬とする。
- 2. 耕起・碎土・均平 休閒期は早めに耕起しておく、均平に努める。
- 3. 種子の予措置 芒や枝梗があるときは欠株を生じやすいので取り除く。浸種は1〜3昼夜で終り、ハト胸程度とする。



- 4. 播種 播種量は10a当り3〜5kgとし、条間25〜27cmの点播。3.3㎡当り75〜80株を確保すること。覆土の厚さは2〜3cm程度とし、鎮圧は均一に行なう。
- 5. 雑草防除 (10a当り)  
播種直後 (水150〜200ℓ) ニップ乳剤1,000〜1,200cc  
灌水後 サターンSまたはニップ粒 3kg  
後期除草剤 2.4-D
- 6. 灌水 入水は徐々に行ない、灌水は5〜6葉期とする。
- 7. 漏水防止 灌水時に畦畔の漏水に注意する。
- 8. 病害防除 発芽より入水期までのツマグロ、ヒメトビ、8月以降の紋枯、メイチュウ防除に努める。
- 9. 水管理 4葉期までの灌水は生育障害になるので、極力排力に努める。後は移植に準ずる。

施肥基準と窒素のやり方

成分量 N15kg, P10kg, K13kg

窒素の施肥割合 (%)

元肥	7月5日	同20日	8月18日	同30日
	10	40	10	30
				10

・備考 第2回追肥と実施は天候により加減する。稲作の健全化をはかるため、ケイサン苦土石灰を10a当り150kg施用する。

ことしも、押しつまってもう11月あとがきになりました。年があげたと思う間もなく、あと1ヵ月少々でことしも終りです。

このところ政治、経済上にいろいろ大きな問題が出て、底の浅い日本国は大揺れに揺れています。編集子として率直に云わせて貰うならば、むしろ今日の苦痛はもっと早くなめるべきであったような気がします。

それにしても、今日の苦しみをどう受けとめるか、好転のきざしが見えたら、トタンにこれまでの苦しみを忘れるような苦勞の仕方では、元のモクアミになりましょう。

(K)